

## 【学生による ESD 活動支援】

### 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト 活動報告書

特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加

1. 企画名 市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト（クリスマスリース作り）
2. 日時 2020 年 11 月 23 日（月・祝）9 時 30 分～12 時
3. 場所 奈良公園、ならまちセンター
4. 講師 奈良市まほろばシェアリングネイチャーの会
5. 参加学生 特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加  
国語教育専修 1 回生 高垣 有貴

#### 6. 概要

奈良公園にて二つのネイチャーゲーム（木のシルエット、フィールドパターン）、そしてならまちセンターにてクリスマスリース作りを行った。学生は受付、安全管理、リース作りの補助等を行った。ネイチャーゲームの「木のシルエット」は体を使って木の形を再現するもの、「フィールドパターン」は紙に書かれた丸や三角形のものを自然の中から探し出す活動である。クリスマスリース作りでは、子どもたちがそれぞれ好きなリースの土台、材料を選び、どんぐりや松ぼっくり、落ち葉等をつけて装飾した。

#### 7. 活動を通じた学び

ESD に関わる活動支援として、「市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト（クリスマスリースづくり）」にスタッフとして参加した。私が今回の活動を通して学んだことを、以下の 3 点述べたい。第 1 にじっくり見ることでの気づき、第 2 に自然の良さへの気づき、第 3 に手や耳などの感覚を使った楽しさである。

第 1 のじっくり見ることでの気づきについてである。ネイチャーゲームの「フィールドパターン」では、葉の形や石の形を見て、子どもたちが丸や三角の形以外にも、難しいハートの形や渦巻形のもの積極的に探す様子が見られた。「木のシルエット」でも同様に、普段からあまりじっくりと見ることのないと思われる、自然に生えている植物や落ちている石や葉を、ネイチャーゲームを通して細かな部分まで着目して観察する様子が見られた。

第 2 の自然の良さへの気づきについてである。ネイチャーゲームやリース作りなどの活動は、楽しみながら自然の良さへ気づききっかけになると考えた。

第 3 の手や耳などの感覚を使った楽しさについてである。今回は親子での参加だけでなく、子ども同士の参加もあった。また、年齢層も幅広く、小学生の年齢に満たない子どもも参加していた。感触や匂い、音など、感覚を働かせながら小さな子どもでも難しさを感じず、楽しく参加できるゲームや製作であると感じた。年齢層が低くても子どもたちが楽しみながら学ぶことができる取り組みとして、とても有意義な活動であると考えた。

今回の活動を通して、このような 3 点のことを学ぶことができた。得た学びを今後の活動にも生かしていきたい。



ネイチャーゲームの様子

**【学生による ESD 活動支援】**  
**NEW 市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト**  
**(クリスマスリースづくり) 活動報告書**

美術教育専修 1 回生 高垣有貴

1. 企画名 「NEW 市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト(クリスマスリースづくり)」
2. 日時 2020 年 11 月 23 日 (月・祝) 午前 9 時半～正午
3. 場所 県庁前の園地・ならまちセンター
4. 講師 奈良市まほろばシェアリングネイチャーの会
5. 参加学生 特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加  
美術教育専修 1 回生 高垣有貴

6. 概要

9:00 受付開始 (環境政策課)

ネイチャーゲームスタッフ、ならまちセンターへ搬入後、行基前に移動

9:15 受付開始

9:30 開始の挨拶 (主催者 会長)、NG スタッフ紹介

県庁前の園地へ移動

9:50 前後 県庁前の園地にてネイチャーゲーム開始

木のシルエット

移動時およびアクティビティ時にリースに使いたい葉っぱやどんぐりがあれば拾う

10:40 頃 ならまちセンター移動 (園地～興福寺～ならまちセンター)

到着後、トイレ休憩

11:00 リースづくり開始

机で作業をしてもらう

11:45 終了、終わりの挨拶 (主催者 会長)

あとかたづけ

12:00 退出、解散

7. 活動を通した学び

私は今回の活動で、三つのことを学んだ。

一つ目は、子どもたちへの話しかけ方である。ただ話しかけるのではなく、子どもたちが楽しくなるような、感性を発達させてあげられるような話しかけ方が大切だと先生方の対応を見て学んだ。例えば、シカのふんを踏まないように歩いている子に対して、私なら「シカのふんを踏まないように歩いているの?」と話しかけていたが、近くにおられた先生が「シカのふんを踏まないように上手に歩けるかな?」と声をかけておられた。そうすると、子どもは楽しそうにびよんびよん跳ねながら歩きはじめ、声のかけ方次第で子どもはこんなにも変わるのだと感じた。それからは、「こんなどんぐりもあるよ!」「その葉っぱとてもきれいな色やね!」「ハートの形の物はどれだろう?」などと、自然の色んなものに興味が湧いたり、探してみようと思えるような声掛けを心がけた。

二つ目は、企画内容の工夫だ。全員が集まってもらうために吹く笛を、今回はアヒルの鳴き声が出る笛を使っておられた。その笛を吹くと子どもたちは「おもしろい音～」と笑いながら集合場所に集まっ

ていた。また、落ち葉やまつぼっくりを拾う際に使う袋として、ビニール袋ではなくバンダナを配りそれで袋を作った。これによって、環境に良いものを使う大切さも感じてもらえると思った。こうした一つひとつの工夫がとても重要だと学んだ。

三つ目は、地域のすべての人たちが楽しめる企画作りだ。最近、今回のようなイベントの参加申し込みもオンラインが多いという。しかし、孫と参加したいなどといったお年寄りはスマホを持っていない方も多く、参加申し込みの往復はがきも無くすべきではないという話を行った。このように、地域に住むすべての方が快適にすごせるような企画作りが必要だと学んだ。

今回の活動で、これら三つのことを私は学んだ。また、子どもだけの参加もあり、その子たちに積極的に話しかけていたら、あちらから楽しそうに話しかけてくれるようになりとても嬉しかった。今回のイベントは当日来られた方以外にもたくさんの方の協力があって成り立っていることも忘れてはいけなと感じた。多くのことを学べたESD実践だった。これからも参加し、もっと成長していきたい。



ネイチャーゲーム



クリスマスリースづくり